

# 平成25年度冬作関係 除草剤・生育調節剤試験判定内容

(公財) 日本植物調節剤研究協会

平成25年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成26年9月11日(木)に浅草ビューホテルにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者33名、委託関係者33名ほか、計84名の参集を得て、除草剤20薬剤(90点)、及び

生育調節剤1薬剤(2点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

## 平成25年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

### A. 除草剤 (1)小麦

注)アンダーラインは新たに判定された部分を示す。

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	判定	使用規準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
1. BCH-081 フロアブル ジフルフェニカン 8.4% フルフェナセト 33.6%  [バリエル クロップ サイエンス]	実・継	一年生雑草、(イヌカタビラを含む)	茎葉兼土壌	播種後～小麦3葉期、イネ科雑草1葉期まで	60～80mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	全域	・葉に白斑や黄化、褐変を生じる場合がある ・イヌカタビラが多発する圃場では高用量で使用する *SU抵抗性、ジネトロアエリル 抵抗性、およびその複合抵抗性に有効	・カズノコグサ発生後処理(小麦1～3葉)での効果の確認 ・抵抗性スズメテッポウ発生前処理の60～70mL、発生後処理(小麦1～3葉)での効果の確認 ・ネズミギキに対する効果の確認 ・ネズミギキに対する60～70mL/10aでの効果の確認
		カズノコグサ	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	80mL 散布水量 100L		東北以南		
		*抵抗性スズメテッポウ ネズミギキ		播種後～小麦1葉期、ネズミギキ発生始期まで					
2. KUH-112 乳 ピロキサスルホン0.88% ベンチオカーブ57.7% リニロン:10.5%  [クアイ化学工業]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	400～500mL 散布水量70～100L	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	*SU抵抗性、ジネトロアエリル抵抗性、およびその複合抵抗性に有効	・散布水量70L/10aでの効果、葉害の確認 ・カズノコグサ、抵抗性スズメテッポウ、カラスミギキ、ネズミギキに対する効果の確認
		カズノコグサ			500mL 散布水量70～100L				
		*抵抗性スズメテッポウ							
		ネズミギキ							
3. KUH-112 細粒F ピロキサスルホン0.1% ベンチオカーブ6.6% リニロン:1.2%  [クアイ化学工業]	実	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	4～5kg	全土壌 (砂土を除く)	東北以南		
4. MBH-075 乳 プロスホルカルブ 46% リニロン 11.5%  [丸和バイオケミカル]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	400300～600mL 散布水量 5025～100L	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	・砂壤土では生育抑制を生じる場合がある ・少量散布(25～50L/10a)の場合は専用ノズルを使用する。 *SU抵抗性、ジネトロアエリル抵抗性、およびその複合抵抗性に有効	・散布水量50L/10aでの年次変動の確認 ・散布水量25L/10aでの効果、葉害の確認 ・散布水量25L/10aでの年次変動の確認(葉害) ・薬量300mL/10aでの年次変動の確認
		カズノコグサ			400～600mL 散布水量 5025～100L				
		*抵抗性スズメテッポウ			500～600mL 散布水量 5025～100L				

薬剤名 有効成分及び含 有率(%)	判定	使用規準						継続の内容			
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意		
5. NC-613 乳 エスプロカルブ <sup>®</sup> 60% ジフルフェニカン 1.5%  [日産化学]	実・雑	一年生雑 草(イネカミツ を含む)	茎葉兼 土壌	播種後～小 麦2葉期、雑 草発生始期 まで	300～ 400mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除 く)	北海道	・葉に白斑を生じる場合がある ・イネカミツが多発する圃場では高用量で使用 *SU抵抗性、ジネロアニン抵抗性、およびその複合抵抗性に有効	・小麦1～2葉期での年次変動の確認(東北以南) ・小麦1～2葉期、葉量200mL/10aでの効果、葉害の確認(東北以南)		
		一年生雑 草		播種後～小 麦出芽前、 雑草発生始 期まで	300～ 500mL 散布水量 100L					東北以南	
				小麦1～2葉 期、雑草発 生始期まで	300～ 400mL 散布水量 100L						
		*抵抗性ス ズメノテッポウ		播種後～小 麦出芽前、 スズメノテッ ポウ発生始 期まで	300～ 500mL 散布水量 100L						
		カスノコグサ		播種後～小 麦出芽前、 カスノコグサ 発生始期まで	400～ 500mL 散布水量 100L						
6. NC-613 細粒 エスプロカルブ <sup>®</sup> 6% ジフルフェニカン 0.15%  [日産化学]	実・雑 (従来 どおり)	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前、 雑草発生前	3～5kg	全土壌 (砂土を除 く)	東北以南	・葉に白斑を生じる場合がある *SU抵抗性、ジネロアニン抵抗性、およびその複合抵抗性に有効	・小麦出芽直前～ 出芽始期での効果、葉害の確認		
		カスノコグサ									
		*抵抗性ス ズメノテッポウ									
7. SL-1201 フロアフル トプロロン <sup>®</sup> 42.1%  [石原ハイサイエンス]	実・雑	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前、 雑草発生前	300～ 400mL 散布水量 100L	全土壌(砂 土を除く)	全域		・年次変動の確認(北海道) ・葉量200mL/10aでの効果、葉害の確認		
8. SYJ-100 乳 プロスルホカルブ <sup>®</sup> 78.4%  [シンジエンタ ジャパン]	実・雑	一年生雑 草	茎葉兼 土壌	播種後～ 小麦4葉期、 雑草発生始 期まで	400～ 500mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除 く)	全域	・葉斑、黄化、縮葉などの症状がみられる場合がある ・北海道の小麦2～4葉期処理は初冬播き栽培で使用 *SU抵抗性、ジネロアニン抵抗性、およびその複合抵抗性に有効	・カラスミギ、ネズミギに対する効果の確認 ・発生前処理における400mL/10a処理でのヤエムグラに対する効果の確認 ・低抵抗性スズメノテッポウに対する効果の年次変動の確認 ・問題雑草多発圃場における体系処理での効果の確認 ・雑草2葉期での効果の確認 ・イネカミツに対する小麦1～2葉期での年次変動の確認(北海道)		
				播種後出芽 前、雑草発 生前	400～ 500mL 散布水量 50L					北海道	
				小麦1～2葉 期、雑草発 生始期まで							
		カスノコグサ	播種後～小 麦2葉期、カ スノコグサ 発生始期まで	400～ 500mL 散布水量 100L	全域						
		*抵抗性ス ズメノテッポウ	播種後～ 小麦2葉期、 スズメノテッ ポウ発生始 期まで		東北以南						
		ヤエムグラ	播種後出芽 前、ヤエム グラ発生前	500mL 散布水量 100L							
9. SYJ-227 細粒 プロスルホカルブ <sup>®</sup> 7%、 リネロン 1.75%  [シンジエンタ ジャパン]	実・雑 (従来 どおり)	一年生雑 草	土壌	播種後出芽 前、 雑草発生前	3～4kg	全土壌 (砂土を除 く)	東北以南	*SU抵抗性、ジネロアニン抵抗性、およびその複合抵抗性に有効	・3kg処理での抵抗性スズメノテッポウにおける効果の確認 ・カスノコグサに対する効果の年次変動の確認		
		カスノコグサ									
		*抵抗性ス ズメノテッポウ								4kg	
		ヤエムグラ								3～4kg	

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	判定	使用規準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
10.ZH-1303(H) フロアブル 新規化合物A:4% 新規化合物B:18% [全国農業協同組合連合会]	継								・効果、葉害の確認
11.トリフルラン 粒 トリフルラン 2.5% [ダウ・ケミカル日本]	実・継 (従来どおり)	一年生雑草(ツユクサ、カキツバダ、キクアブラナ科雑草を除く)	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	4~5kg	全土壌(砂土を除く)	全域	・ツユクサ、カキツバダ、キクアブラナ科雑草を除く ・中耕培土後処理は、播種後の土壌処理剤との体系で使用する。	・北海道での小麦1~3葉期(イネ科雑草1葉期まで)の効果、葉害の確認 ・カズノコグサに対する効果の変動要因の確認 ・小麦生育期処理(前処理剤との体系)での効果、葉害の確認
		一年生イネ科雑草、カズノコグサ		小麦生育期中耕培土後雑草発生前			東北以南		

A.除草剤 (2)大麦

1.KUH-112 乳 ピロキサスホン0.88% ベンチオカーブ57.7% リネクロン:10.5% [クマイ化学工業]	継								・効果、葉害の確認(東北以南)
2.KUH-112 細粒F ピロキサスホン0.1% ベンチオカーブ6.6% リネクロン:1.2% [クマイ化学工業]	継								・効果、葉害の確認(東北以南)
3.MBH-075 乳 プロスホカルブ 46% リネクロン 11.5% [丸和ハイオケミカル]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	400300~600mL 散布水量25~100L	全土壌(砂土を除く)	東北以南	・黄化、生育抑制を生じる場合がある ・少量散布(25~50L/10a)の場合は専用ノズルを使用する。	・散布水量25~50L/10aでの年次変動の確認 ・葉量300mL/10aでの年次変動の確認
4.NC-613 細粒 エスプロカルブ 6%、 ジフルフェニカン 0.15% [日産化学工業]	実・継 (従来どおり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	3~5kg	全土壌(砂土を除く)	東北以南	・薬に白斑を生じる場合がある	・カズノコグサ、抵抗性スズメノテッポウに対する効果の確認 ・大麦出芽前~揃期での効果、葉害の確認
5.NH-007 フロアブル グリホサートイソプロピルアミン塩30% ピラフルフェンエチル 0.16% [日本農薬]	実	一年生雑草	茎葉	耕起7日以前、雑草生育期(草丈30cm以下)	400~600mL 散布水量100L	全土壌(砂土を除く)	全域		
6.トリフルラン 粒 トリフルラン 2.5% [ダウ・ケミカル日本]	実・継	一年生雑草(ツユクサ、カキツバダ、キクアブラナ科雑草を除く)	土壌	播種後出芽前 雑草発生前	4~5kg	全土壌(砂土を除く)	全域	・ツユクサ、カキツバダ、キクアブラナ科雑草を除く ・中耕培土後大麦生育期処理は播種後の土壌処理剤との体系で使用する	・カズノコグサに対する効果の変動要因の確認(中耕培土後処理) ・大麦生育期処理(前処理剤との体系)での年次変動の確認
		一年生イネ科雑草、カズノコグサ		大麦生育期中耕培土後雑草発生前			東北以南		

## A. 除草剤 (3) 水稲刈跡

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	判定	使用規準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1. AH-01 液 グルホシネートPナトリウム塩:11.5% [*Meiji Seika ファルマ、北興化学工業]	実	一年生雑草	茎葉	水稲刈取後、雑草生育期(草丈30cm以下)	300～500mL 散布水量 100～150L	全土壌	全域		
2. NH-007 フロアブル ピラフルフェンエチル: 0.16% グリホサートイソプロピルアミン塩:30% [日本農薬]	実・継 (従来どおり)	一年生雑草	茎葉	水稲刈取後、雑草生育期(草丈30cm以下)	400～600mL 散布水量 100L	全土壌	全域		・多年生雑草に対する処理時期と翌年の発生量低減効果の確認
		多年生雑草		500～1000mL 散布水量 100L					
3. SBH-207 (旧NHS-50) 粒 塩素酸トリウム:50% [エス・ディー・エス・ハイオテック]	実・継 (従来どおり)	一年生雑草、多年生イネ科雑草、マツバノイ	土壌	水稲刈取後雑草生育期	20～25kg	全土壌	東北以南		・多年生イネ科雑草に対する薬量と効果の確認 ・20kg/10a処理でのオモガカに対する当年の効果、および翌年の発生量低減効果の確認 ・30～40kg/10aでのオモガカに対する年次変動の確認
		オモガカ		水稲刈取後10日以内、雑草生育期	30～40kg				

## B. 生育調節剤

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	判定	使用規準							継続の内容
		対象作物 使用目的	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1. BAW-0907 液 クロルメコト 65.8% [BASFジャパン]	実 (従来どおり)	秋播き小麦 節間伸長抑制による倒伏軽減	茎葉	幼穂形成期	150～200mL 散布水量 100L	全土壌	北海道		
				出穂前20～10日(草丈40～60cm)	200～300mL 散布水量 100L				